

私たちの くらしと水

vol. 41 2014.3.2



宇都宮市上下水道局

検索

特集
SPECIAL CONTENTS

くらしの中で感じる水のめぐみ③

水と人が育てる宇都宮の農業

- 水道水の水質検査
- 下水道工事のいろいろ
- 雨水貯留タンク・浸透ます設置者アンケート調査の結果発表！

水とめぐみ③ 水と命の循環

宇都宮牛などの^{もつし}素牛を飼育する大根田さんの牧草地で、雨と太陽が育てた牧草を食べて、ゆったりと過ごす親牛たち。その乳を飲んで育った子牛たちはやがて出荷されます。水と命は絶えず循環して、私たちに多くのめぐみを与えてくれます。

- 撮影場所>> 宇都宮市屋板町
- モデル>> 大根田 一男さんと親牛たち

水と人が育てる宇都宮の農業

～アスパラガス生産者を訪ねて～



アスパラリンも作ってます！

アスパラガス生産者(中岡本町)
さがらとしかず りつこ
相良 利和さん・律子さん

大寒を過ぎる頃、土の中でたっぷりと栄養を蓄えたアスパラガスの若茎が顔を出します。春の訪れとともに、旬を迎えるアスパラガス、中でも「アスパラリン」は宇都宮期待のニューブランドとしても注目の野菜です。

アスパラガス生産者を訪ね、私たちの食卓においしい野菜が届くまでの、自然の恵みや生産者の惜しみない努力など、宇都宮の農業について伺いました。

取材協力/栃木県河内農業振興事務所・JA うつのみや



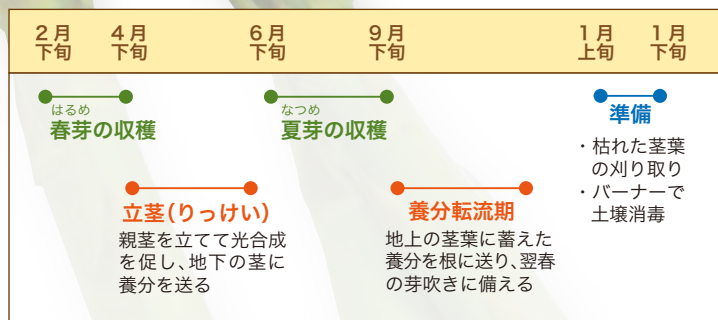
独自の選果基準をクリアしたもののみが地域ブランド「アスパラリン」として出荷される。

健康な土が、健康な野菜を育てる

アスパラガス(以下アスパラ)はユリ科の多年生植物。苗を植えてから数年間は収穫できませんが、一度親株ができれば同じ株から10年以上にわたって収穫できるのが特徴です。

相良さん夫妻が、経験ゼロから手探りでスタートしたアスパラ栽培は、土をつくることから始まりました。「人が食べる物だから、できるだけ安全に」という思いから、土壌分析をした上で必要な肥料を入れています。「土を健全に保ち、可能な限り減農薬で育てる」。たとえ大変でも、相良さんが譲れないこだわりです。

○アスパラの栽培カレンダー(相良さんの場合)



今が旬 宇都宮のアスパラ

寒さが緩む2月下旬、アスパラの収穫が始まります。それから約2か月間、「春芽」の収穫は毎日休みなく続きます。採ると隣の芽が伸びる習性のアスパラ。1日に何cmも成長するため、アスパラと追いかけてこの日々。

みっしりと茎が太く、甘くてジューシーな宇都宮のアスパラは、今が一番美味しい旬を迎えています。



「春芽」の収穫は4月末まで続く。6月の「夏芽」の収穫が始まるまでは、茎を伸ばして栄養を蓄えさせます。

水は命

～アスパラは水が大好き

「アスパラは本当に水が好き野菜なんですよ」と相良さん。根を広く張っているため、広範囲に水をかける必要があります。特に夏場は、一日に数回水をあげなければならないため、ハウスの両脇と真ん中に散水用のチューブを設置し、こまめな水の管理をしています。

鬼怒川沿いにある相良さんの畑は、鬼怒川の伏流水が豊富な土地。相良さんのアスパラは豊かな水の恵みに育まれています。



水を使ったエコ技術

～ウォーターカーテン

相良さんのハウスには、「ウォーターカーテン」というものが設置されています。二重構造になったハウスの内側と外側のビニールの間にパイプを通し、地下水を流すものです。冬でも外気温より水温の高い地下水を利用して水の膜を作ることにより、夜間のハウス内の温度低下を防ぐことができます。宇都宮の農業者が考案したというこの技術により、暖房機を使わず保温することができ、省エネルギーでの収穫が可能になりました。宇都宮市内のイチゴやアスパラ栽培の多くに、このウォーターカーテンが利用されています。

